

令和 5 年度

「運営に関する計画」

大阪市立諏訪小学校

令和 6 年 2 月

(様式 1)

大阪市立諏訪小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 現状として、暴力行為やいじめなど生活指導に関することについては概ね目標とするところを達成できているが、不登校に関する内容については増加傾向にあり、課題となっている。学校が児童の居場所となり、充実した学校生活を送るためにも、児童の規範意識を高め、楽しく学校に登校できることが、子どもが安心して成長できる安全な学校として不可欠である。
- 本校の児童は、大阪市学力経年調査において、5・6年生は大阪市平均を下回っており、4年生は大阪市平均をわずかに上回っている。また、市平均の7割に満たない児童の割合についての前年度の比較においては、5年生は増加し6年生は減少した。また、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点は低下しており、全国平均と比較しても課題は大きい。引き続き運動能力の向上に向けた取り組みを行っていく必要がある。
- 教職員の中で20代の占める割合が高く、育児や介護などの事情を抱えながら働くものも多くいる。教職員の連携を密にすることや研修を充実させることで、効率的に勤務することができるようしていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 児童が安心して学校生活を楽しめるために、校内児童アンケート調査で、「学校に行くのは楽しいですか」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を向上させる。【平成31年度：84%→令和2年度：87%→令和3年度：84%→令和4年度：77%】

- 安全意識や規範意識を高めるために、校内児童アンケート調査で、「廊下を走らず右側通行をしていますか。」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を向上させる。【平成31年度：83%→令和2年度：90%→令和3年度：90%→令和4年度：87%】

- 不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【平成31年度：1.20→令和2年度：1.80→令和3年度：2.31→令和4年度：2.00】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 学力の底上げをめざし、小学校学力経年調査における市平均の7割に満たない児童の割合を減少させる。【平成31年度：12.6%→令和2年度：9.2%→令和3年度：14.3%→令和4年度：15.4%】

- 基礎体力及び運動能力の向上を目的に、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を大阪市平均より向上させる。

【平成29年度：男子-2.3 女子-3.9 平成30年度：男子-0.7 女子+0.3 平成31年：男子-1.2 女子-0.7 令和2・3年度：一部種目のみ実施 令和4年度：男子-3.8 女子-4.4】

【学びを支える教育環境の充実】

- 教職員の連携を密にすることや研修を充実させることで、効率的に仕事に取り組み、教員の一人当たり平均時間外勤務時間を校種別平均並みにする。

【令和3年度の累計：校種別平均27時間41分 本校平均32時間41分】

【令和4年度の累計：校種別平均27時間18分 本校平均28時間47分（1月現在）】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を72%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ①児童が安心して学校生活を楽しめるために、校内児童アンケート調査で、「学校に行くのは楽しいですか」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- ②安全意識や規範意識を高めるために、校内児童アンケート調査で、「廊下を走らず右側通行をしていますか。」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を63%以上にする。

学校園の年度目標

- ①学力の底上げをめざし、小学校学力経年調査における市平均の7割に満たない児童の割合を令和4年度：15.4%より減少させる。
- ②基礎体力及び運動能力の向上を目的に、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を大阪市平均並みに向上させる。
- ③規則正しい生活を身に付けている児童の割合（「朝食を毎日食べていますか」「きちんと手を洗うことができていますか」「好き嫌いをせずに残さず食べていますか」の3項目についての肯定的ご回答率平均）を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- デジタル教材を活用した学習や学習者用端末を活用した家庭学習を定期的に実施する。
- 教職員の連携を密にすることや研修を充実させることで、効率的に仕事に取り組み、教員の一人当たり平均時間外勤務時間を昨年度より減少させ、校種別平均並みにする。

【令和4年度の累計：校種別平均27時間18分 本校平均28時間47分（1月現在）】

学校園の年度目標

- ①デジタル教材を活用した学習を週に複数回、学習者用端末を活用した家庭学習を学期に1回以上実施する。
- ②時間外勤務上限基準1（月時間外勤務時間 45 時間未満かつ年間時間外勤務時間 360 時間未満）を達成している教職員の割合を前年度以上にする。【令和4年度：52.5%】

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市教育振興基本計画に基づき、学校運営全体を通して教育活動の実践に取り組んだ。その結果は以下の通りである。

【安全・安心な教育の推進】について

- (1) 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 72.1% となり目標の 72% 以上を達成することができた。「どちらかといえば、そう思う」が 21.3% おり、肯定的な回答をする児童は計 93.4% となる。次年度もいじめはどんな理由があってもいけないことであるということを児童に認識させる指導を継続していく。
- (2) 不登校児童の在籍比率は以下の通りである。

令和 3 年度 : 2.2% 令和 4 年度 : 2.0% 令和 5 年度 : 1.5%

割合は昨年度より下がり、減少させるという目標を達成できた。今年度もスクリーニング会議の定期的な実施により、不登校気味の子どもについても校内で共通理解や取り組みについて意思確認を丁寧に行っている。今後とも教職員だけでなく、区役所や子ども相談センター、医療機関等と連携して対応にあたっていきたい。

- (3) 新たに不登校になる児童の割合は以下の通りである。

令和 3 年度 : 0.8% 令和 4 年度 : 0.1% 令和 5 年度 : 0 %

新たに不登校になる児童の割合は減少しており、今年度から新たに不登校となった児童はいなかった。前年度から不登校の児童のなかで登校できる日数が増えてきている児童もいる。今後も児童に寄り添い、登校できる日を増やしていくように取り組んでいく。

- (4) 校内児童アンケート調査で、「学校に行くのは楽しいですか」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合は 81% となり目標の 80% 以上を達成できた。次年度も児童が安心して学校生活を楽しめるように、引き続き工夫した取り組みが必要であると考える。
- (5) 校内児童アンケート調査で、「廊下を走らず右側通行をしていますか。」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合は 87% となり目標の 88% 以上を達成できなかった。安全意識や規範意識を高めるために、より一層工夫した取り組みが必要であると考える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

- (1) 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 33.4% となり目標の 40% 以上を達成できなかった。
- (2) 小学校学力経年調査における国語および算数の同一母集団における平均正答率の対全市比を同一母集団において経年的な比較は次の通りとなった。

4 年 国語 -0.5 算数 -2.3

5 年 国語 +0.6 算数 +1.9

6 年 国語 -1.7 算数 ±0

5 年生の算数は前年度より 1 ポイント以上向上させることができたが、その他は目標を達成することができなかった。学力向上に向けた取り組みの工夫が必要である。

- (3) 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は79.3%となり目標の83%以上を達成できなかった。
- (4) 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は72.7%となり目標の71%以上を達成できた。
- (5) 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は67.3%となり目標の63%以上を達成できた。
- (6) 小学校学力経年調査における市平均の7割に満たない児童の割合は15.7%となり、昨年度の15.4%とわずかながら増加する結果となった。引き続き学力の底上げをめざし、ICTの活用など一層の指導の工夫をしていく必要がある。
- (7) 全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点平均は次の通りとなった。

男子 本校平均 49.44 大阪市平均 51.13

女子 本校平均 50.20 大阪市平均 52.67

男女とも大阪市平均を下回った。本校は運動の習慣がない児童が多く、毎年体力合計点平均が大阪市平均を下回っている。市平均を上回っている項目もあるものの、今後も体育学習において課題となっている種目の運動能力が向上するように、取り組んでいく必要がある。

- (8) 校内児童アンケート調査で、「朝食を毎日食べていますか」の肯定的回率は93%、「きちんと手を洗うことができていますか」は74%、「好き嫌いをせずに残さず食べていますか」は80%となり、3項目すべてを85%以上にする目標を達成することはできなかった。児童が規則正しい生活を身に付けるため、継続的に工夫して指導していく必要があると考えられる。

【学びを支える教育環境の充実】について

- (1) デジタル教材を活用した学習や学習者用端末を活用した家庭学習を定期的に実施することができた。
- (2) 教職員の連携を密にすることや研修を充実させることで、効率的に仕事に取り組み、教員の一人当たり平均時間外勤務時間を昨年度より減少させることができたが、校種別平均並みにすることはできなかった。

【令和3年度の累計：校種別平均27時間41分 本校平均32時間41分

→令和4年度の累計：校種別平均27時間57分 本校平均29時間44分

→令和5年度の累計：校種別平均25時間54分 本校平均26時間58分（12月現在）】

- (3) デジタル教材を活用した学習を週に複数回、学習者用端末を活用した家庭学習を学期1回以上実施することができた。
- (4) 時間外勤務上限基準1（月時間外勤務時間45時間未満かつ年間時間外勤務時間360時間未満）を達成している教職員の割合は前年度を上回った。【令和4年度：52.5%→令和5年度60%】

(様式 2)

大阪市立諏訪小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 72%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>①児童が安心して学校生活を楽しめるために、校内児童アンケート調査で、「学校に行くのは楽しいですか」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>②安全意識や規範意識を高めるために、校内児童アンケート調査で、「廊下を走らず右側通行をしていますか。」の項目について「はい（どちらかといえばはい）」と答える児童の割合を 88%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>道徳科の学習や日々の生活の中で、いじめについての指導を行うとともに、教職員間でも、いじめや暴力行為などについても話し合い、早期発見に努める。また、場面に応じて、関係諸機関とも連携したり、ICT を活用したりして、児童や保護者のサポートができるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <p>「いじめについて考える日」に道徳科の学習を行い、日々の生活の中でもいじめは何があってもいけないことだと指導していく。</p> <p>月 1 回子どもに「いじめアンケート」を実施する。また、得た結果を学年会や生徒指導部会等で取り上げて情報を記録して共有する。</p> <p>学校が、いじめ防止に取り組んでいることを、学校だより等で啓発する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>学年や学級での活動を充実させて、仲間づくりを進める。</p>	B
<p>指標</p> <p>学年や学級での集会活動や仲間づくりの活動を月 2 回以上行う。</p> <p>2 時間目と 3 時間目の間の休み時間を 20 分にして、学級や縦割り活動などに活用する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>友だちのいいところを見つけたり、学校で楽しかったことについて話したりする場を設定する。また、スクールライフノートの活用を進める。</p>	B

<p>指標</p> <p>帰りの会等、学級の実態に合わせて、週3回以上取り組む。</p> <p>委員会やクラブ活動の前に帰りの会を実施することで、ていねいに一日の振り返りを行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>たてわり班（キッズファミリー）、ペア学年での学習などを活用して異学年交流を充実する。</p>	B
<p>指標</p> <p>キッズファミリーやペア学年での学習などの活動を年5回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>道徳科の時間だけでなく、学級活動の時間にきまりを守ることの大切さについて考えあう時間を設ける。</p>	B
<p>指標</p> <p>月に1回以上きまりを守ることについて考えあう時間を設ける。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>廊下や階段に矢印や視覚的に意識づけるポスターを貼り、強調週間を通して児童に安全の意識を高めるように啓発する。</p>	B
<p>指標</p> <p>学期に1回ろうかを歩いて右側通行ができるよう、強調週間を設け実践する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>取組内容①</p> <p>「いじめについて考える日」や道徳の授業だけでなく、日ごろからいじめは絶対にいけないことだと繰り返し指導している。いじめアンケートも端末を活用して（1、2年生は紙）、月1回実施しており、何か異変があれば、すぐに聴き取りを行っている。</p>	
<p>今年度途中から「生活指導ファイル」を作成し、各学年の状況を取りまとめ、教職員に回覧することを始めた。しかし、各学年で取りまとめるための業務が増え、作成したファイルも秘扱いとなり、簡単に回覧できるものではなかった。</p>	
<p>学校がいじめ防止に取り組んでいることを、学校だよりで取り上げたのは11月の1回のみ（例年通り）で、啓発につながりにくいと考えられる。</p>	
<p>どんなに児童に指導を行っていたとしても、今年度もいじめ事案は発生してしまった。だが、学年や生活指導部、管理職で情報共有し対応したことで、一定の効果は上がっている。また、指導後に間を空けず、当該児童の保護者に学校での様子を連絡し続けることで、今後の対応に生かせるということも分かった。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>20分休憩や昼休みを活用して、みんな遊びを行っている学年がほとんどである。6年生は学年のスポーツ大会やクイズ大会などを児童主体で実施できた。一方、1年生は2、3時間目が体育なので、着替えや移動に時間がかかり、20分休みの活用が難しいということから、コマまわしや凧揚げなどの学年遊びに取り組んだ。</p>	
<p>様々な理由から縦割り活動（全校遠足、長縄遊び）の回数の減少が気になったり、学級活動をみんな遊び以外でどのように進めていけばよいか難しいと感じたりしている。</p>	
<p>取組内容③</p> <p>いいとこみつけは、ほとんど毎日取り組むことができており、「日直さんは友だちのいい</p>	

「どこを話しましょう」と工夫をしているクラスもある。スクールライフノートの心の天気はどの学年も入力する習慣がついてきた。曇りや雨のときは、担任から声をかけて話を聞くようにしている。

取組内容④ キッズファミリーでは年内の活動が7回あり、朝の集会などもあることから指標には到達している。しかし、3・4年生のペア学年としての活動が少ないままである。前回の中間評価ではクラブ活動を紹介するなどの提案も出ていたが実施には至っていない。

取組内容⑤ 学級で日ごろから考えあう時間は設けられている。特にグラウンドから教室に帰るときの帰り方は昨年度に比べてよくなっているのではないかという声もあった。しかし日々の看護日記を見ると「学級活動の時間に決まりを守ることの大切さについて考えあう時間を設ける」という点は、実施に至っていないところもある。

取組内容⑥ 強調週間の時には、右側通行を心掛ける姿も見られたが、休み時間にグラウンドに向かう時や、教職員の目が届かない場所では走る児童がみられる。しかし、雨の日に放送を流し始めるようになってから、雨の日に関しては教室の中で落ち着いて過ごすことができる様子が増えた。

次年度に向けての改善点

取組内容①

「いじめについて考える日」やいじめ防止のための学校だが、年1回だけでは効果的な啓発につながらないと感じる。「いじめについて考える日」は各学期の児童朝会で行い、いじめについての学校だよりの回数を2回に増やす。

スクリーニングIと生活指導部会での学年共有が混在しており、どのように全体に伝えるのかの線引きが難しい。今年度、始めた「生活指導ファイル」も業務の増加と取扱いの困難さから適切とは言い難い。そこで、職員会議のスクリーニングIと児童共有の時間を分けることにし、スクリーニングIでは児童・家庭相談所につながる児童について、その後に児童共有で気になる児童や学年全体の問題点について報告を行うように区別する方法が取れないか検討中である。

取組内容②

学級活動（学級会、ボードゲームやカードゲームなどの遊び）につながる研修を行い、多様な学級活動ができるようにする（春季休業中に研修予定）。

今年度に行ったキッズファミリー活動やペア学年の活動は維持し、それ以外にペア学年での活動を検討中である。

取組内容③

今後もいいとこみつけや心の天気を継続して行い、気になった児童に対して、声をかけるようにする。

取組内容④

ペア学年という言葉はコロナが流行し始めてから付け足したものであり、もう外してもよいのではという声もあった。今後は学年の実態に応じてタブレット・リコーダーの使用法やトイレ掃除の仕方を教えるなど行事ではなくても、教職員間で連携してペア学年で行えることは取り組んでいく形でよいのではと考える。

取組内容⑤

普段の指導は継続していきつつ、今後は学級活動の時間にも取り組めるようにしていく。

取組内容⑥

日頃の声掛けを徹底していく。また、雨の日の放送に関しても継続して行う。

(様式 2)
大阪市立諏訪小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 71%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 63%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>①学力の底上げをめざし、小学校学力経年調査における市平均の 7 割に満たない児童の割合を令和 4 年度：15.4%より減少させる。</p> <p>②基礎体力及び運動能力の向上を目的に、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を大阪市平均並みに向上させる。</p> <p>③規則正しい生活を身に付けている児童の割合（「朝食を毎日食べていますか」「きちんと手を洗うことができますか」「好き嫌いをせずに残さず食べていますか」の 3 項目についての肯定的回率平均）を 85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童の考えを広めたり、深めたりすることをねらいとして、授業で自分の考えを伝え合う活動を取り入れる。授業や単元の終わりに考えを深めたり、広げたりできたかを振り返り、確認できるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <p>児童アンケートの「学級の友だちとの話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目で、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を 40%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学習内容の基礎・基本の定着を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>国語科と算数科の基礎・基本を定着させるため、火曜日の朝に学習タイム、水曜</p>	

日の朝に読書タイムを実施する。	
取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 体育の学習時や休み時間に「投げる」「跳ぶ」「走る」などの基本動作を身につける活動を行う。	B
指標 低学年はソフトボール投げ、中学年は立ち幅跳び、高学年は50m走の記録を5月と11月に実施する。11月が5月の記録より低学年+10%、中学年+5%、高学年+2%上回るようにする。	
取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 こまめな手洗いをする習慣をつける。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年3回（6月・11月・2月）手洗いがんばり週間を実施する。 学校保健委員会の開催やポスターの掲示。 月1回発行の「保健だより」を活用して、手洗いをしようとする児童の意欲を高める。 毎週金曜日、各学級で清潔調べをし、健康に対する意識を高め、手洗いの習慣を身に付けさせる。 	
取組内容⑤【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 心身ともに健康ですごすために、児童の食への関心を高める。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導や月1回発行の「給食だより」等を活用して、食への興味関心を高める。 5月と1月に残食率を調べる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 指標としていた児童アンケートの「学級の友だちとの話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目で、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合が39%と、目標に届かなかった。しかし、様々な学習において話し合う活動を取り入れ、話し合う人数の工夫や話型の提示などを行うことで、自分の考えを述べることができる児童は増えてきた。	
取組内容② 各学年の実態に応じて、ドリルやプリントを用いて朝学習を行ってきた。水曜日の読書タイムでは、低学年では地域の方の読み聞かせが定着し、高学年では読み聞かせと自分での読書の習慣がついてきている。	
取組内容③ <ul style="list-style-type: none"> 低学年（ソフトボール投げ）は、平均+21%（達成） 中学年（立ち幅跳び）は、平均+7.1%（達成） 高学年（50m走）は、平均+2.5%（達成） 体育学習や休み時間において、各学年の課題の動きに合わせて、運動する機会を設けることができた学年・学級が見られた。 	
取組内容④ <ul style="list-style-type: none"> おおむね取り組めている。 	

- ・学校園の年度目標では③規則正しい生活を身に付けている児童の割合（「朝食を毎日食べていますか」「きちんと手を洗うことができていますか」「好き嫌いをせずに残さず食べていますか」の3項目についての肯定的回答率平均）が85%に届かなかった。

- ・低学年は「手洗いがんばり週間」の期間中のみ、がんばれている傾向が見られる。

取組内容⑤

- ・年2回の食に関する指導や月1回のたより、カレンダー、掲示物等を活用することで、健康に過ごすためには食べる事も大切であるとの意識は高まりつつある。残食率は5月5%⇒1月4%と減少しており、しっかり食べようとする意欲は高まっている。

次年度に向けての改善点

取組内容①

今後もペアや小グループでの話し合いや話型の提示などの工夫を行い、児童自身が自信をもって「わかった」「深められた」と感じられるように継続して指導を行っていく。

取組内容②

取り組んではいるものの、基礎・基本の定着には至っていない児童もいる。ドリルやプリント、デジタルドリルなど様々なものを活用し、個に応じた内容を選択できるようにするなどして、朝学習の時間を活用する。

読書については、継続して行っていく。

取組内容③

- ・指標内容は達成することはできたが、大阪市平均と比較すると大きく下回っている。（特に立ち幅跳び）学校園の年度目標②と取組内容③との関係性が合っていない。

→5月と11月の記録を比較するのではなく、来年度の記録が今年度の記録を上回るような取り組み内容であれば、徐々に大阪市平均の記録に近づくのではないか。

例）指標：11月の新体力テストの男女別「立ち幅跳び」の記録を前年度の記録より上回るようにする。

→低学年・中学年・高学年に分けずに、一つの課題の動きをねらいとして取り組む。

（立ち幅跳び・反復横跳びの記録が大阪市平均より大きく下回っていたので、「跳び」の動きをねらいとして取り組んではどうか。）

- ・全体的な平均値では達成できたが、各学級単位でみると目標基準より下回っている学級が見られた。（どのような運動学習をしたらいいのか分からぬ意見があった。）

→全学級がそれぞれの課題の動きの能力を高めるための指導を統一して行う。

→年度初めに体育学習で行える運動指導の研修会を行う。

- ・学校園の年度目標②の内容は、5年生の体力テストでしか比較できないので、文言を変更した方がいいのではないか。

- ・大阪市平均は、男子と女子に分けて結果を提示しているので、本校も男女別の記録で比較した方がいいのではないか。

- ・全市共通目標の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」と比較していないので、来年度から全体で集計して比較する。

取組内容④

- ・児童アンケートにおける文言の「朝来た時や、休み時間に、きちんと手を洗うことができていますか。」については、コロナの5類移行に伴い声掛けも減少しており、アンケート数値としては肯定的回答を減らす要因とも考えられる。

- ・せいけつ調べは個々の担任の声掛け次第で改善しそうだと考える。

取組内容⑤

従来の取り組みを継続的に実施していきたい。給食は量が多いという児童も多くいる。給食は健康的な食生活の見本であることを示し、また家庭へも発信することで、児童にとつて必要な量を家庭へも知らせていく。日々の給食指導の充実とともに家庭へも健康的な食生活が続けられるよう啓発していく。

(様式 2)

大阪市立諏訪小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標 ○デジタル教材を活用した学習や学習者用端末を活用した家庭学習を定期的に実施する。 ○教職員の連携を密にすることや研修を充実させることで、効率的に仕事に取り組み、教員の一人当たり平均時間外勤務時間を昨年度より減少させ、校種別平均並みにする。 【令和 4 年度の累計:校種別平均 27 時間 18 分 本校平均 28 時間 47 分(1 月現在)】 学校園の年度目標 ①デジタル教材を活用した学習を週に複数回、学習者用端末を活用した家庭学習を学期に 1 回以上実施する。 ②時間外勤務上限基準 1 (月時間外勤務時間 45 時間未満かつ年間時間外勤務時間 360 時間未満)を達成している教職員の割合を前年度以上にする。【令和 4 年度:52.5%】	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況

取組内容① 【基本的な方向 6、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 デジタル教材を活用した学習や学習者用端末を活用した家庭学習を行う。 指標 デジタル教材を週に 3 回以上活用する。また、学習者用端末を活用した家庭学習を学期に 1 回以上行う。	B
取組内容② 【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の時間外勤務を減少させるような工夫を行う。 指標 週に 1 回、ゆとりの日を設定する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 各学年の実態に応じてデジタル教材や学習者用端末を活用してきた。デジタルドリルに取り組む、端末を使ってプレゼンテーションを行う、休業中の学習などに学習者用端末を使用する等の取り組みを行った。	
取組内容② 昨年度の同じ時期と比較すると、平均時間外勤務時間は減少しており、改善の方向に向かっている。しかし、校種別の平均時間と比較すると、まだ月に約 1 時間ぐらい残業時間が長い。ゆとりの日は設定されているが、教職員個人の意識や仕事によって勤務時間に差がある。	

次年度に向けての改善点
<p>取組内容①</p> <p>近年、取り組めていることが学習ドリルかパワーポイントにとどまっている。より活用できるような授業展開などを教職員間で共有していく。(スカイメニューを活用した授業展開の研修を予定)。</p>
<p>取組内容②</p> <p>毎週1回はゆとりの日を設定しているが、その時間を超えて残っている職員がいる。感覚的にもゆとりがあるとはいえず、年間計画の変更・学校行事の改善を行う必要があり、来年度に向けて修正を進めている。また、会議や学校行事を精選していく必要がある。</p>